

東アジアの離島集落に見る住まいの変容と生活文化

—台湾金門島及び八重山諸島石垣島を事例に—

TRANSFORMATION OF HOUSE AND CULTURE OF LIFE IN VILLAGES : REMOTE ISLAND OF EAST ASIA

A case study of Kinmen Island of Taiwan and Ishigaki Island of Yaeyama

.....
長野 真紀 大学院芸術工学研究科 助教
今村 文彦 基礎教育センター 教授
黄 國賓 芸術工学部ビジュアルデザイン学科 准教授

Maki NAGANO Graduate School of Arts and Design, Assistant Professor
Fumihiko IMAMURA Center for Liberal Arts, Professor
Kuo-pin HUANG Department of Visual Design, School of Arts and Design, Associate Professor
.....

要旨

本研究では、福佬 (Ho-lo) 人の移住文化を対象に、その歴史と暮らしの変遷、居住環境について分析・考察した。研究対象地は周囲を海に囲まれた環境下であり、独自の伝統文化や習俗、空間構造を継承している。このような地理的・文化的環境の中で、東アジアの結節点となる台湾領域中国福建省金門島及び八重山諸島石垣島を主対象に捉え、研究を展開した。

金門島では、血縁による結びつきが重視され、同一氏族により形成された宗族的つながりを強く持つ単姓村と、多数の氏により形成される複姓村に分類される。対象集落は、海岸線に沿った緩やかな台地に立地し、1315年頃に福建省廈門からの移住者が開墾した農漁村集落である。住居は四合院で構成され、一定の領域内で中規模な空間を形成しているが、宗族ごとに住居の向きが異なり、それぞれに方向軸を持っているため各時代の空間形成の発展性を読み取ることができる。

また、集落は明確な境界域を定めず、人口増加に対応しながら空間を拡張している。これは、島に福佬人しか居住していないこと、地形条件に対する制限が少ないことが要因として考えられる。台湾本島や石垣島では、住居の周囲は自然地形や植栽などにより空間を補っている場合が多い。

Summary

The study targets the migration culture of ho-lo and analyzes and examines the evolution of the history and life, and the cross-border nature of their living environment. The target area of the research is located in an environment surrounded by sea and that has inherited a unique and traditional culture, and customs and spatial structure.

In Kinmen Island, ties based on blood relationships are valued and the villages are classified into two types: villages with a single family name where there are strong ties in the family line formed by the same clan and villages with multiple family names where family lines are formed by diverse clans. The targeted settlement is located in a moderate plateau land along the coastline and is a fishing and agrarian village established on reclaimed land in 1315 by migrants from Amoy in the Fujian province. The residences are of the Si-he-yuan structure (an enclosed square yard with houses on four sides) but the direction of the houses of each family line is different and one can see the nature of the development of the spatial formation in each period.

1. 研究の背景と目的

これまでの東アジア研究を通して、多様なかたちの背景を探りながら、固有の文化を背景に形成された集落空間及び居住環境の重要性と、空間の越境性を認識するに至った。本研究は、台湾領域の中国福建省金門島—台湾本島—八重山諸島石垣島へと居住地を移動してきた福佬人集落の立地形態、集落景観、居住空間の比較分析を通して、地理的環境や歴史的背景の異なる地域でどのように集住環境を構築してきたのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究の対象

日本の最南端に位置する沖縄八重山諸島は、多様で複雑な世界観を持っている。そして、台湾本島および金門島もまた、周囲を海に囲まれた環境下にあり、独自の伝統文化や習俗、空間構造を継承している。金門島は近世以来、海外移民を送り出す郷村であった。1600年代に中国福建省漳州や泉州から移住してきた福佬人は台湾人口の約7割を占め、東アジアの離島にも多く居住している。彼らは、海によって分断されている陸地・地域・文化の関係性を周辺族群や地域とのつながりの中で再構築し、生活環境を継承させてきた(図1)。



図1 金門島位置図

3. 研究の方法と調査内容

本研究は中国古地図、地形図、国土基本図、公文書、地籍図、土地台帳、寄留簿、航空写真などの歴史的・文化的資料から集落の空間構成を明らかにし、現地調査および聞き取り調査を通して文献資料の有効性を確認しながら進めていく。2015年6月から11月までの期間中に、研究報告を含め計4回の調査を行った。

- 6月：沖縄県石垣市(研究報告、聞き取り調査、現地調査)
- 8月：国立国会図書館関西館(文献調査)
- 9月：台湾金門縣金門島(現地調査)
- 11月：國立臺灣圖書館(文献調査)

4. 金門島の概要

金門島は台湾海峡の西側、廈門の東側にある九龍江口に位置し、中華民国福建省に属す台湾領土の離島である。島の総面積約は153km²、大小12の島々で構成され、古くは浯州や仙州と呼ばれていたが、14世紀後期(明代)に多くの守禦を置いて城を建築したことにより金門城と呼ばれ、金門へと地名を変更した歴史を持つ。島の開拓は晋代(266~420年)に始まったと言われ、15世紀以降、福建省からの移住者によって現存する多くの集落が形成された。1937年からの8年間は日本軍による占領を受けたが、統治されなかったため、言語、建築、生活様式、慣習には閩南文化が色濃く残っている。1949年からは軍事基地としての役割を果たし、1992年に嚴戒令が解除され小三通^{註1)}が解禁されて以降、人の往来が始まった。

5. 島内集落の立地環境と形成年代

島の中央部に250m級の山が位置し、その周囲は沿岸部まで平坦な地形が続く。河川や降雨が少ない土地柄、水源を求めて自然発生的に集落が形成された。島の水源は乏しく、降雨時にわずかな溪流ができる9本の細い河川しかないため、集落の中心部には必ず井戸や湧水があり、人工池や住居内の中庭に雨水の貯水場を造成しているところが多い(写真1)。また、冬季の季節風と夏季の台風による風が強く、北東部には防風林を持つ集落も多い。歴史的な塩田造成のための植生伐採、造船材料の確保、軍隊への食糧供給のための開墾等によって島全体の植生破壊が進んだ結果、風害が大きくなり、その対処法として集落内の路地は狭く短く入り込んだ空間を形成している。

明代には、現在の集落の母体となる61集落が形成され、陽宅、後水頭、西村、平林(現：瓊林)、後浦の5集落が最も栄えていた。清代・道光年間には166集落が確認されており¹⁾、約300年間で105集落が新た

に形成されることが分かる。現地調査および航空写真、文献調査²⁾から明らかになった金門島における現在の集落数は伝統的集落7、準伝統的集落21、既存集落97、合計125集落であった^{注2)}。清代から現在まで41集落が消滅しているが、現存する集落の保存状態はよく、一部の建物には戦闘による傷跡も残るが、政府の資金援助により老朽化の進む建物の再建も進んでいる。



写真1 共同井戸(后山集落)

6. 対象事例集落1-金門島

金門島の集落は血縁による結びつきが重視され、同一氏族によって形成された宗族的つながりを強く持つ単姓村と、多数の氏によって形成される複姓村に分類される。現存する125集落の中でも、歴史的価値を持つ伝統的集落に指定されている複姓村の水頭集落を事例に、集落の形成過程と住居様式について述べていく。

6-1 水頭集落

島の南西部、海岸線に沿った緩やかな台地に立地する水頭は、元代1315年頃に福建省廈門から移住してきた黄姓の人々が開墾した農漁村集落である(写真2)。集落の東側から頂界・中界・下界・後界の4段階で居住空間を増殖し、明代には大規模集落へと発展した。集落には黄、李、陳姓をはじめ16姓の宗族が居住しているが、姓氏によって居住地が分かれており、金門島に移住してきた血縁ごとに住まいの場所を緩やかに区分している。

住居は二落大厝の四合院で構成され、一定の領域内で中規模な空間を形成しており、住居規模には大きな差異がない。住居を規則的に配置し、広い前庭と中庭を確保しながら、近隣住居とは狭隘な路地空間を挟ん

で風害や外敵からの侵入を防ぐ構成をとる。一つの集落でありながら宗族(領域)ごとに住居の向きが異なり、空間形成の発展性を読み取ることができる。



写真2 水頭集落全景

7. 対象事例集落2-石垣島

戦前から台湾と八重山の間には人や物が頻繁に往来し、八重山は台湾経済圏の中に位置づけられていた。日本統治時代以降、台湾に最も近い与那国島は台湾と沖縄の中継地点として民間貿易が盛んであり、また、台湾で教育を受けた人も多く台湾からも多くの人々が移住した。本研究で対象とする石垣島の台湾系集落に居住する人々も、パイナップル・マンゴー・水牛を台湾から持ち込み、八重山の農業を発展させた。商売で移住する華僑は世界各地にいるが、農業移民は多くない状況下で農地開拓から産業を興し島に根を張った。

7-1 名蔵集落・嵩田集落

石垣島西部に位置する名蔵・嵩田集落には、昭和初期から中期にかけて台湾から移住してきた福佬人が居住している。名蔵集落は扇状地性低地に立地し、水が豊かな土地であるが、大津波やマラリアなど、歴史的に過酷な環境を経験してきた。また、廃村、強制移住、本土農家や台湾からの入植、戦後の自由移民と、いくつかの人の流れがあった。嵩田集落は狭小で平地が少なく、南北・東を山に囲まれた環境下であり、山間の窪地地形に位置する。両集落とも移住当初は平屋の茅葺民家に居住していたが、1980年頃には多くの世帯が三合院を再建している(写真3)。

旧土地台帳と一筆調査図を用いて地番、地目、所有者について調べ、両集落の土地利用分布を把握した。両集落では、入植した世帯ごとに耕作地に便利な場所

に住居を建設した経緯を持ち、隣家とは数百メートル離れた分散型の住まいを形成している。農地を中心として水系の近くに居住地を選定し、生産域の中に小規模単位の居住域が点在している。また、寄留簿から移住前に居住していた場所の立地特性を読み取ると、集落は主に平野、台地、盆地、丘陵地上にあり、平坦地または緩斜面地に広く分布していることが明らかになった。そして、住居が一定の区域に集まって、大規模及び中規模な空間を構成している「集結型」および、住居と住居の間に田畑や林地が広がり住居間の距離がある「分散型」の形態が最も多く、海沿い及び河川沿いに立地する集落も一部で確認できた。



写真3 左：1956年台湾人住居³⁾、右：築60年の三合院式住居

8. 金門島の四合院・石垣島の三合院と空間特性

金門島の四合院は内部を周遊できる空間構成を持ち、外部との閉鎖性が強い。居室は各室で独立している例が多く、中庭は貯水場や採光を得るための空間として使用され、住居の奥に進むにつれ私的性が強まる。住居の方位軸は集落ごとに異なるが、最小3~4戸、最大15~20戸が一つの集合体として形成され、通路を挟んで数ブロックの固まりにより集落が構成されている。そのため分散型の住居形態はなく、隣接する集落とは500~1,500mの範囲内に分布する密度の高い居住域を構成している。

石垣島に現存する三合院は、竹林などの植物によって後方及び両側をコの字型に抱護されている。一條龍の左右に米貯蔵庫と釜戸・井戸を有する作業庫があり、一見すると三合院であるが、各空間は独立している。正庁を中心に、左右に4つの個室が設けられた五間起の形式で、各室は内部通路で空間が繋がっている。名蔵集落では、入植した世帯ごとに農地を中心として居住地を選定しているため、平地の生産域の中に小規

模単位の居住域が点在している。嵩田集落では、未開の緩斜面地を開墾した歴史的経緯を持ち、隣接する名蔵集落と聖域(御嶽)を共有している。

9. 金門島と石垣島の居住空間比較

大陸から金門島・台湾本島へ、金門島から台湾本島・東南アジアへ、台湾本島から石垣島への移住により、建築様式や集落形態に地域の特徴や文化的要素が付加されながら新しい居住環境が形成され、地理的条件や周辺に居住する族群との関係性によって住まい方には多様性が生まれている。金門島から台湾本島への移住の際、四合院のように居住空間の四方を取り囲む様式は一般住居には継承されず、比較的周囲に開かれた三合院が広く普及した。そのため、台湾本島や石垣島では、住居の周囲は自然地形や植栽などによって空間を補っている場合が多い。そして、台湾本島では集落範囲を先に規定してから住居を増殖することが多いが、金門島では明確な集落界を定めず、人口の増加に対応しながら空間を拡張していることが読み取れる。これは、島に福佬人しか居住していないこと、斜面地や丘陵地などの地形条件に対する制限が少ないことが要因として考えられる。一方、石垣島の台湾系集落では決められた空間範囲の中にあっても、移住前の空間特性を継承していることが明らかになった。

注

- 1) 中国との直接の通郵、通商、通航を三通と呼び、1981年から不接触、不談判、不妥協の三不政策を実施し、直接の三通を禁じてきた。
- 2) 伝統的集落:1995年の金門國家公園成立時に指定・保存された7集落、準伝統的集落:集落全体が保存され空間構成や建物に大きな欠落がない集落、としている。

引用文献

- 1) 金門國家公園管理處、『金門傳統聚落形成發展族譜資料彙編』、中華民國國家公園學會、2000年、pp. 29-30
- 2) 行政院文化建設委員會委託淡江大學建築研究所、『金門與澎湖地區傳統聚落及民宅之調查研究』、1994年、pp. 7-29
- 3) 宮城文、『八重山生活誌』、1972年、p. 35

参考文献

- 1) 川島真、「地域研究の対象としての金門島」『地域研究11巻1号』、昭和堂、2011年、pp. 7-19